

平成26年第2回定例会(6月20日)一般質問答弁報告

①千葉市の農業について

質問① 農地中間管理事業への取組状況について

農政部 農政課 答弁 農地中間管理事業への取組状況は、県が、本年4月1日に、公益社団法人千葉県園芸協会を農地中間管理機構に指定し、10年後に、県内農地の51パーセントを担い手が利用することを目標に業務を開始した。

これまで、市町村と関係団体を対象に、事業説明会が2回開催され、8月には、農地の借受け希望者の募集が開始される予定。

今後は、県農地中間管理機構や農協などの関係団体と連携し、業務相談や農地の出し手・受け手の掘り起しなどを行い、意欲ある担い手への農地集積・集約を進め、市内農業の活性化を図っていく。

質問② 「人・農地プラン」を、どのように地域の活性化に結び付けるのか

農政部 農業経営支援課 答弁 本市では「人・農地プラン」を平成25年2月に策定し、今後の地域の中心となる経営体の位置づけを行うとともに、農業を始めて間もない方々に対して、国の「青年就農給付金」を活用し支援してきた。

一方、本年3月には、国の農地中間管理事業が開始され、プラン策定地域内の農地を、農地中間管理機構に一定割合以上貸し付けた場合、その貸付割合に応じて「地域集積協力金」が交付されることになり、意欲から農業者の方々への農地集積・集約が期待される。

今後は、農地中間管理事業を有効に活用できるよう「人・農地プラン」の地域を細分化するなど、実情に合わせた見直しを行い、地域の活性化に結びつけていきたい。



質問③ 農政センターを活用した後継者支援の具体的な取り組みについて

農政部 農業生産振興課 答弁 今年度から、農政センター内ほ場で、農業後継者の方々を対象に、高品質で付加価値の高い農作物の生産技術を習得していただくため、「あととりスキルアップ研修」を開始している。

この研修では、4月から、花き農家の後継者の方、お1人が、直売所で人気の高い「トルコギキョウ」の栽培技術の習得に取り組んでいるほか、8月からは、トマトの養液土耕栽培技術の習得に向け、2人の後継者を迎えることとなっている。

今後は、市内での消費拡大が期待されるイチゴの施設栽培などについても、培った技術の普及・指導に努めていく。

要望

市では、「農地中間管理事業」や「人・農地プラン」に取り組んでいくとのことなので、今後、地域での話し合いによって、担い手への農地集積や経営転換なども進み、地域ごとに特色ある力強い農業が展開され、将来にわたってさらに活性化されていくよう期待している。

熊谷市長におかれては、もっと農業に目を向けていただき、ほかの政令市にはない、千葉市独自の魅力ある都市農業を目指していただくようお願いする。

また、後継者いわゆる、「あととり」への支援については、本年度から、農政センターを活用した「あととりスキルアップ研修」をスタートしたとのことであり、具体的な事業として反映され、大変期待をすところである。

農政センターで開始した「あととりスキルアップ研修」は、職員の手導のもと、試行錯誤を重ねながら、新たに取り組む品目の栽培技術を習得し、経営の拡大に役立ててもらうとともに、実家ではなく世間の空気の中で触発される場でもあると思うので、後継者が、本市での研修をきっかけに、新たな品目による規模拡大などを旨とする、チャレンジ精神旺盛な農業者として育てていくよう期待する。それと共に、当局の力強い支援の継続に対し重ねて要望する。

②誉田地区のまちづくりについて

質問① 誉田駅北側周辺では、今後、どのようなまちづくりが望ましいと考えているか。

都市計画課 答弁 誉田駅北側周辺では、今後も住宅建設が進むと予想され、誉田駅周辺は地域の拠点となることから、駅近くには生活に必要な利便施設などが立地し、徒歩により生活ができるまちづくりが、望ましい姿と考えている。

質問② 用途地域見直しについて 誉田駅北側においてスーパーマーケットなどが立地できるよう、用途地域を見直すのか

都市計画課 答弁 駅周辺など、生活の拠点となる区域の土地利用のあり方は、平成27年度に策定を予定している都市計画マスタープランの中で明らかにしようと考えている。これを受け、誉田駅北側周辺の具体的な用途地域の見直しについては、地域住民の意向を踏まえて進めていく。



質問③ 誉田駅前線及び駅前広場について ア) 誉田駅前線の用地買収の進捗状況について

街路建設課 答弁 まず、誉田駅前線の用地買収の進捗状況については、全体用地取得面積は、駅前広場を含め約1万平方メートルで、平成26年度末の用地取得率は約16%となる見込み。



道路境界は、本年4月末に全て確定した。今後の見通しは、今年度は自転車駐車場の位置を確定させるなど、駅前広場の修正設計を行い、来年度から用地取得に着手していく。



質問④ 誉田駅前線及び駅前広場について

イ) 誉田十文字踏切の遮断時間の改善による渋滞緩和について

街路建設課 答弁 鉄道を管理するJR東日本旅客鉄道株式会社から、当該踏切は誉田駅構内に含まれるので、普通列車のオーバーラン防止や特急列車の通過待ちによる停車など、一般の踏切より長く遮断しなければならないことから、改善は難しい。そこで高田方面から大網方面への車両は、今年度末に開通する、誉田北線に誘導し、交通の分散を図ることによる、渋滞の緩和に繋がるものと考えている。



要望

誉田地区の町づくりについて

誉田駅前線及び駅前広場については、今まで誉田町95号線の道路境界が確定できずに足踏み状態が続いていたが「事業に関連する境界が確定した」との答弁をいただき、やっと駅前広場の完成への一里塚が超えられたと、ほっとしている。

地域の方々も早期の整備を待ち望んでいるので、今後、第二次実施計画に継続事業として位置付けて、本格的に進めていただくよう、強く要望する。誉田十文字踏切の遮断時間については、構内踏切のため、オーバーラン時の大事故を恐れた対応ということだが、ここ10年間でJR東日本管内で、ホームに停車せず200mもオーバーランしたケースはないと聞いている。今更、駅を移動することもできない。当局は誉田北口線に誘導し、交通の分散を図るとの答弁でだが、それなら今でもセブンイレブンから曲がればよいわけだから、誉田北口線に余り期待を持ってない。駅北側に住む住民は踏切が動脈であるので、市としては効果的な誘導策をしっかりと考えていただき、JRにも強く要望していただきたいと思う。

③誉田小学校について

質問① 今後の児童数の推計はどのように予測しているのか。

教育委員会 教育総務部企画課 答弁 誉田小学校の現在の学級数と児童数については、本年5月1日現在、14学級、377人となっている。また、平成25年5月1日の学校基本調査結果に基づく児童数の推計では、平成27年度の児童数は、431人、その後、29年度には、500人を超え、さらに数年間増加した後、減少に転ずるものと見込んでいる。

質問② 増加する児童数に対して、どのように対応するのか。

教育委員会 教育総務部企画課 答弁 今後も周辺の宅地開発状況や児童生徒数の推移を注視し、必要に応じて特別教室等の普通教室への転用や仮設校舎の設置などについて検討していく。



要望

誉田東小学校について

本校は、市内の他の小学校と比較すると、運動場の面積が、約8,800平米とさほど小さくなく、土地の形状が不整形で、仮設校舎を設置する十分なスペースがあるわけではない。

そこで、今後、児童数が増加し、仮設校舎を設置するような場合には、学校に隣接する用地を購入するなどして、体育の授業や運動会などの学校行事に支障をきたさないよう運動場の面積を十分確保し、子どもたちの教育環境の向どもの育成(わくわく登校・瞳きらきら活動・ここにこ下校)の実現に寄与されるよう要望する。

④平川町の産業廃棄物について

質問① 行政代執行後の監視体制と監視内容について



環境局資源循環部 産業廃棄物指導課 答弁 まず、行政代執行後の監視体制については、現地を塀で囲い門扉に施錠するなど立入制限を図っているほか、廃棄物処理法15条の17の規定に基づく指定区域に指定し、この場所での掘削や土地の形質変更を規制するとともに、職員による週1回の定期パトロールを実施している。

次に、監視の内容については、周囲を囲む塀や門扉について破損等の有無を確認するほか、場内において、覆土、緑化工、法尻の土留部分について点検を行うとともに、ガス抜き管からの臭気の発生状況について確認をしている。

さらに、今後、産業廃棄物の掘削等生活環境の保全上の支障のおそれをもたらす行為がなされないよう、監視カメラを設置している。

なお、平成26年2月には、ガス抜き管内の硫化水素及びメタンについて調査を実施し、周辺環境への安全性が確保されていることを確認している。また、今年度中にも調査を予定している。

質問② 雨天時の監視体制の充実について

環境局資源循環部 産業廃棄物指導課 答弁 現在、実施中の週1回のパトロールに加え、雨天時には、職員による臨時パトロールを実施するとともに、夜間・休日の対応として、民間警備会社による監視パトロールを実施するなど、今年度から監視体制の強化を図っている。

要望

平川町の産業廃棄物について

この通称平川富士という大山に対し、行政代執行を行い、生活環境保全上の支障の除去を行っていただいたことについては、感謝する。しかし、整形したとはいえずは残っております。私のところには、千葉工業大学の八尋先生から、硫化水素ガスの発生や崩落等を心配する声や、また、同大学の学生さんからは、卒業論文に平川に関する私のホームページを参考にしたいとの連絡があるなど、この問題については、地元だけではなく、多くの方々が関心を持っておられる。

監視体制とその内容、特に雨天時の監視体制の充実については、その確実な執行を強く要望する。二度とこのような問題が起きないように、市による監視パトロールの徹底を図ることを、重ねて強く要望する。

今年の梅雨初期の予期せぬ大雨で千葉市緑区でも梅雨入りより多量の雨量を観測いたしました。これにより、平川富士の周辺の民地の畑には、平川富士から流れ込む雨水で畑の土砂が流され、現在深く広い溝ができています。これは想定していなかった事態と思われるが、しっかり対応していただきたい。